

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	社会福祉事務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	林 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	社会福祉協議会の活動に対して補助金を交付し、地域福祉を促進する。併せて、災害被害者や原爆被爆者に対しての見舞金を支給する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	社会福祉協議会の活動に対して補助金を交付し、地域福祉の促進を図る。併せて、災害被災者や原爆被爆者に対しての見舞金の支給を行う。
②①に基づく取組み結果	社会福祉協議会に対して補助金を交付した。コロナ禍での生活福祉資金の貸付申請や自然災害による被災者や原爆被爆者への見舞金の支給を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	障がいのある人や乳幼児から高齢者まですべての市民	意図(対象をどうするのか)	誰もが安心して住み続けられるまちづくりを進めていく。
②事務事業の概要	社会福祉協議会への活動助成。災害被災者・原爆被爆者支援。福祉健康フェアの開催。社会福祉法人への監査。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	近年、異常気象による自然災害が頻繁に発生していることに加え、疫病まん延による社会混乱など、不安定な情勢が続いている。高齢者や障がい者等の社会的弱者、生活困窮者への支援策が実施されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	社会福祉協議会補助金の交付、災害見舞金や原爆被爆者見舞金の支給						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	ボランティア登録数	1,178	1,104	1,078	人	業務取得
	ii	災害見舞金支給件数	20	196	45	件	業務取得
	iii	福祉健康フェア来場者数	2,100	2,100	中止	人	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	114,312	62,703	金額(千円)	内容		58,664	
国支出金(千円)			1,543	報償・保険料等			
県支出金(千円)			53,543	負担金・補助金			
市債その他(千円)	50,317	5,215	2,398	災害・被爆者見舞金		8	
一般財源(千円)	63,995	57,488	5,215	保健福祉基金積立金		58,656	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市と社会福祉協議会との連携、自然災害による被災者支援、少子高齢化による担い手不足など					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	様々な地域課題に対して、市と地域が協働で解決する必要がある。しかし、協働で行うことにより地域等でばらつきが出てしまう可能性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	民生委員・児童委員に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	林 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	昨年度一斉改選により、新たに委嘱された民生委員・児童委員に対しての行政研修を行い、福祉行政の知識の習得や、欠員補充に努め、推薦会を実施の上県に推薦する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	令和4年度の一斉改選に向け、欠員なく委嘱できるよう準備を進める。
②①に基づく取組み結果	コロナ禍のため、各地区の民生委員児童委員協議会定例会の開催が6月まで中止となり、研修会の開催については、感染症対策をとり、10月に実施した。また、3名の欠員補充を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	民生委員・児童委員及び主任児童委員	意図(対象をどうするのか)	支援を必要とする地域住民に円滑な相談活動を行えるよう支援する。
②事務事業の概要	民生委員・児童委員及び主任児童委員の調査・相談活動を支援するため、活動費を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化、核家族化の進行に伴って援助を必要とする世帯の増加が見込まれ、今後一層、民生委員・児童委員の果たす役割が大きくなる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	民生委員・児童委員協議会補助金の支出。 また、令和2年8月1日委嘱(3名)の民生委員推薦会の書面開催をした。(相談・支援活動等の詳細は別添資料のとおり)					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	民生委員・児童委員実数(各年度4月1日現在)	154	155	151	人 業務取得
	ii	相談・支援件数	1164	1045	859	件 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	7,601	7,446	金額(千円)	内容		7,753
国支出金(千円)			41	推薦会報酬		
県支出金(千円)	499	462	5,994	民生委員・児童委員報酬		902
市債その他(千円)			1,411	民生委員児童委員協議会補助金		
一般財源(千円)	7,102	6,984				6,851

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	幅広い地域ニーズに対応している民生委員への負担は重くなる一方、この点へのフォローが必要。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	民生委員・児童委員及び主任児童委員が、その職務を円滑に行えるよう、委嘱や活動の補助についての検証が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

<活動状況>

内 容 別		相談・支援件数		その他の活動件数（延べ数）	
		分野別（内容別からの再掲）			
在宅福祉	59	高齢者に関すること	617	調査・実態把握	471
介護保険	60	障がい者に関すること	53	行事・事業・会議への 参加協力	869
健康・保健医療	88	子どもに関すること	60	地域福祉活動・自主活動	1,653
子育て・母子保健	10	その他	129	民児協運営・研修	3,714
子どもの地域生活	29			証明事務	221
子どもの教育・学校生活	6			要保護児童の発見の 通告・仲介	15
生活費	59				
年金・保険	12				
仕事	7				
家族関係	45				
住居	21				
生活環境	83				
日常的な支援	214				
その他	166				
計	859	計	859	計	6,943

訪 問 回 数	訪問・連絡活動	7,958
	その他	13,250

連絡調整回数	委員相互	10,553
	その他の関係機関	3,557

民生委員・児童委員：定数151人（うち主任児童委員：10人）

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別定額給付金に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	安心して暮らせる社会保障の充実	担当課室長	林 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取り組む改革・改善内容
②①に基づく取り組み結果		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	令和2年4月27日時点で住民登録のある全市民	意図(対象をどうするのか)	支援を必要とする地域住民に円滑な相談活動を行えるよう支援する。
②事務事業の概要	国において閣議決定された「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」で、簡素な仕組みで迅速かつ的確に家計への支援を行うため、一人当たり10万円を給付する特別定額給付金事業を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全庁的なプロジェクトチームを組織し、迅速かつ的確に給付できるよう、対象者抽出から受付・審査業務、振込業務等を遺漏なく実施した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	令和3年5月6日時点で、市民への支払い総数は109,744件であった(事業実施結果の詳細は別添資料のとおり)。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	支払い総数			109,744	人 業務取得
	ii	支払い総額			10,974,400	千円 業務取得
	iii	申請率			99.65	% 業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	0	11,015,268	金額(千円)	内容		0
		11,014,373	11,592	通信運搬費		
			11,267	電算処理委託		
			1,197	システム使用料		
	一般財源(千円)	895	10,974,400	特別定額給付金給付事業交付金		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和2年度で事業が終了するため、なし。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	令和2年度で事業が終了するため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

特別定額給付金給付事業総括表(5/6時点)

	世帯数	人数
対象総数	50,233	110,125
支払い総数	49,914	109,744
辞退	18	23
締切後無効申請	43	57
申請率	99.36%	99.65%
支払い総額	10,974,400千円	

返戻(判明)	110	-
返戻(不明)	49	-
締切後問合せ内容 上位2つ	①受付期間終了後の申請への不決定通知に対する苦情 ②特別定額給付金の振込がいつになるかの問い合わせ	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生活保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	3	2	
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	安心して暮らせる社会保障の充実	担当課室長	林 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生活困窮者自立支援制度と生活保護制度を併せ、引き続き効果的な運用を図っていく。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	生活困窮者自立支援制度と生活保護制度を併せ、社会情勢に合わせた効果的な運用を図っていく。
②①に基づく取組み結果	生活困窮者自立支援制度と利用者が自立に結びつかなかった場合にも、生活保護制度の利用により最低限度の生活を維持し、再度自立支援をすることができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	生活保護受給世帯	意図(対象をどうするのか)	自立支援
②事務事業の概要	生活に困窮する被保護者に対し、制度により最低限度の生活を保障しつつ、経済的・精神的・社会的自立を支援する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、雇用の状況悪化等の理由により保護世帯は増加傾向にある。今後も生活困窮者が増加することが見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	令和2年度3月31日時点で126世帯が生活保護からの自立を果たした。(詳細は別添参考資料のとおり)。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	生活保護受給世帯数	1,027	1,029	1,053	世帯	業務取得
	ii	年間訪問件数	4,959	4,581	4,346	回	業務取得
	iii	年間の1世帯あたりの訪問件数	5	4	4	回	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	2,314,624	2,334,341	金額(千円)	内容	2,400,967		
国支出金(千円)	1,784,748	1,796,438	1,796,438	扶助費	1,800,492		
県支出金(千円)	53,746	56,328			53,746		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	476,130	481,575			546,729		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新型コロナウイルス感染拡大に伴い相談件数、保護世帯は増加傾向にある。世帯の状況に合わせた支援が必要であり、雇用状況悪化に伴い就労支援については特に注意が必要だと思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	被保護世帯に対し、最低限度の生活の保障、自立の支援、不正受給防止対策を実施し、今後も効果的な支援について検証を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	総合福祉保健センター改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	2	○
政策	誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	林 宏幸			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	センサー式水栓等の製品の納期が遅延することを見込んだうえで、工事を年度内に完了できる工程を組み、進行管理する。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高齢者や障がい者等をはじめとする来庁者	意図(対象をどうするのか)	感染症の予防
②事務事業の概要	総合福祉保健センター各階トイレの手洗い場の自動水洗化及びソープディスペンサーの自動化により、感染症の予防を図るとともに、高齢者や障がい者等の身体の不自由な方へ配慮することを目的とする。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新型コロナウイルス感染症の需要により、センサー式水栓等の製品の納期が遅延する恐れがあることから、それを見込んだうえで実施する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	総合福祉保健センタートイレ・手洗い場自動水洗化等改修工事の設計委託を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i 予算執行額				1,265	千円	業務委託契約書
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	0	1,265	金額(千円)	内容	8,927		
国支出金(千円)		234	1,265	設計委託	1,657		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		1,000			7,100		
一般財源(千円)		31			170		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、計画的に工事を実施し、年度内に完了させる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	感染症対策のため、令和2年度に総合福祉保健センター改修事業の設計委託を実施し、令和3年度に改修工事を実施する予定であるが、感染症対策を推進するため、照明の人感センサー化等の追加工事費用について、6月補正予算(2,000千円)を計上した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	総合福祉保健センタートイレ・手洗い場自動水洗化等改修工事設計委託	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	設計完了	10,223	1,296	当初	1,296	R1からの繰越	
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)		8,927			